

核酸＋有機カリ液（カリ含有量約25%）

果実肥大液

カリアップ

成分・効果

『カリアップ』の内容は核酸類（植物濃縮液）と有機カリ液です。（カリ成分として25%前後）

カリと核酸・有機酸類は、植物体内で、細胞液中に溶けて平衡関係にあり、生長や代謝作用の盛んな部位に移動して、体内反応を促進します。

カリは細胞膨圧の維持により、水分調整、果実などの細胞の肥大・充実に最も大きな影響をもちます。つまり『カリアップ』によって、植物体内（葉や茎）の養分が果実へ転流して、急激に実を太らせる威力を発揮するのです。



実がついたら、
『カリアップ』で
グングン太らせる!!
ただし、樹は痩せるので
樹勢の維持に注意!!
液体カリが核酸に溶けているので3日で判る速効性!!

カリアップの特性

カリアップとは名の通りカリが実の充実の為に働くよう、核酸に溶け込んでおり、根元から吸わせることにより、葉中の養分の移動を促進させるものです。メロン、スイカなどには2回に分けて、10a当り10ℓを加水してパイプ灌水するか、50倍にして1本当り2ℓくらい与えるか、葉色を見ながら行って下さい。

トマトなどは各段の肥大期に10ℓづつ上記同様にしますが、必ず葉面散布で、樹勢を保つよう注意して下さい。

イチゴなど実の肥大と糖度アップの両方の効果が出ていますが、草勢のため、ヘモ・グロンを5ℓほど加えて流すことが、ポイントです。

ネギには、ハードカル3対ヘモ・グロン3対カリアップ4の比率で混合して、灌水すると、折れにくい、シャッキリしてツヤが有る見事な品となります。

単用より目的に合わせた混用をおすすめします。

製造元 栄研産業株式会社

カリアップの使用方法

◎上手な使い方 (10 a 当り)

- 果菜・10ℓを加水して灌水15日毎
- 果樹・結実直後から同上2回根元へ
- 洋菜・30日後位から同上2回畝間へ

◎肥大期2度目のカリアップ施用には、ヘモ・グロン5～10ℓ/100坪を併用すると特に玉伸びが良好となります。

◎徒長の抑制に役立ちます。

◎ぶどうには徒長の抑制に小豆粒アズキぐらいのときカリアップ5～10a/100坪根元灌水。

◎カルシウムはハードカルが速効性が有り良好。

果菜類の果実肥大に、『カリアップ』を2回(以上)に分けて散布します。

- ①まず、着果時(結実始め)に、10アール当り5リットル～10リットル散布。
- ②15日ほど間隔をあけて2回目の散布……………10リットル。
連続収穫の作物(トマト、キュウリ)では、15日間隔で10リットルずつ。
- ③葉面散布500倍。

水	稲	田植直後から15日間、10 a 当り20 ℓを水田から流し込む、幹が太くなり肥料が切れる。
ハクサイ	キャベツ	活着後、畝の間を通れる迄200倍にして殺虫剤など混用OK。10 a 当り300 ℓ以上十分に散布する。外葉が伸び葉色は濃くなる。回数はいほど良い。
大ニンジン	ゴボウ	ヘモ・グロン4対ハードカル3対カリアップ3の比率で先づ葉面散布、殺虫剤混用OK。畝が通れる後半に、カリアップ100倍にして300 ℓ以上散布する。葉がピンと立つ。
トマ	なす	10 a 当り5 ℓを加水してチューブ灌水する。
きゅうり		葉面散布の場合は上記の様に4：3：3の比率で十分に散布する。自家液肥作りの中へカリアップ20 ℓ追加も効果有り。
ハウスミカン	梨	ハウス栽培の最大の注意は、裂果とヨゴレです。カリアップは初期に流して皮の生長を促進させておくこと、次に、肥大中期に再度使用して実の肥大をさせます。10 a 当り20 ℓを加水使用のこと。
ぶどう		
露地の果実		初期の天気が良いすぎ、中間に雨が多きときその後天気になったとき裂果が激しいのです。初期にしっかりカリアップを与え雨どきは、ハードカルで押えて品質の向上と裂果を防ぎましょう。カリアップ10 a 当り20 ℓ。ハードカルも同量使用のこと。